

全国壮年会連合と壮年たちに期待すること

九州バプテスト神学校宣教センター長
松見 俊

「全国壮年会連合ニュース」に寄稿できることを感謝します。三つの期待を述べます。第一は、福音宣教の担い手、「後継者養成」への壮年たちの積極的参与です。福音宣教の担い手の養成は、諸教会、地方連合、日本バプテスト連盟への期待だけではなく、全国壮年会連合への期待です。神はイエス・キリストという歴史的出来事において語られたとすれば、このお方を証言することは最重の課題です。福音宣教はキリスト者と教会でなければなしえないものです。その意味で、全国壮年会連合が東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校の支援に一步踏み出してくださることに感謝です。

第二は、教会形成への参与です。私は、キリスト者「個々人」（主体的個）と主イエスによってその実現が始まっている「神の国」（シャローム）の実現とそれらを繋ぐ「教会」形成の重要性を思い、壮年会連合に集う人たちが良き「教会人」であれと祈ります。私は 18 歳の時に日本バプテスト連盟仙川キリスト教会でバプテスマを受け、19 歳でいわゆる「献身者」として立たされ、現在 77 歳になるまで、日本社会が真に民主的になるためには、主体的個の契約共同体であるバプテスト教会が確立されねばならないという確信のもとに歩んできました。「教会形成」、これが、老年となった今でも、私の一貫した目標です。

第三に、キリスト者の「社会的責任」です。主イエスは、「諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、わずらいをおいやしになった」（マタイ 4:23）のです。主はこの働きをご自分だけでなく、彼に信従する弟子たちにも委託されました。「主告白」と癒し・悪霊追放の働きは、権威、権力、富みに縛られた人間を解放する働きです。今日、武力に対しては武力の対峙による「報復」、そのために武力の「均衡」という動きが加速しています。宗教のカルト化を自省しつつ、自民族誇示の日本社会の偏狭性（天皇制）との対峙も要求されます。まず神の国と神の義とを求めるときに、力や富への対処の仕方も学べます。壮年たちよ、キリストにあり、教会に根ざした良き社会人であれ！



1947年東京生れ。1965年日本バプテスト連盟仙川キリスト教会で受洗。西南学院大学神学部、スイス・リュブリコン神学院、米国ヴァージニア・ユニオン神学院で神学を学び、瑞穂教会、栗ヶ沢教会で牧会。バプ連宣教研究所、西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で神学教育、後継者養成に携わる。現在九州バプテスト神学校宣教センター長、バプテスト東福岡教員。

長尾 基詩（ながおきし） 西南学院大学神学部（府中教会出身）

2024 年 8 月 12-15 日、東アジア平和センターが主催するツアー「第三回アジア青年平和学校 非武装地帯で歌う平和の歌！」に参加しました。韓国の鐵原（チョロン）にありますが、国境線平和学校を拠点にしての学びでした。韓国と北朝鮮のほとんど境目にして今なお軍事的な緊張感のある地に行って学びを得たことは、現在の世界の至る所で起きている戦争、紛争という事柄を真剣な意味で考えることのできた時間でした。

国境線平和学校は 38 度線の非常に近くに位置し、そこからは北朝鮮の山々を望み見ることが出来ます。校長はコリアの分断を象徴するまさにその地で、青年に平和について考え、学ぶ機会を持ってほしいと言われました。フィールドツアーにて白馬高地や、地下道など様々なところを見るのはもちろんのこと、このツアーが大切にしていることは今を生きるアジアの人々が交流し、新たな関係を築いていくことです。今回は日本、沖縄、韓国から合わせて約 20 名の参加者が集い、ほとんどは大学生です。グループで別れて話し合う時間が持たれるときにはそれぞれの国の学生から質問や、意見が忌憚なく飛び交いました。韓国から見た北朝鮮のイメージは何か？統一という事柄が若い世代にはどれくらいの実感で迫っているか？など普段なら問にくい領域にも入り込んだ討論がなされました。そこでは私たち日本側が北朝鮮のネガティブなイメージを過度に植え付けられているのではないかという疑問も残りましたし、軍事的機能をこの状況で放棄するとは現実にはまだ言うことができないのではないかという正直な韓国側の意見も聞くことができました。



アジア青年平和学校 2024 集合写真

主に呼び出されて

塩山 宗満
茂原バプテスト教会牧師

「福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。(コリントの信徒への手紙一9章23節)」

私が主イエスと出会ったのは中学時代に友人に誘われて熊本バプテスト教会（現熊本愛泉教会）に通い始めたときでした。毎週お話を聞いているうちに、この方主イエスに従っていけば私の人生は間違わない、との思いが与えられ、高校一年の時に信仰告白をし、バプテスマを受けてクリスチャンになりました。当時の熊本教会は青年が大勢集まり、その中から牧師になる献身者が次々と起こされていたのですが、私は信徒として神様にお仕えして行こうと、献身の呼びかけには抵抗して技術者への道を選び、学校のこともあって東京へ出ていきました。

三鷹バプテスト教会に籍を置いて、当時の高度成長期の日本社会の中でコンピュータ関連の会社で働き人間を続けていました。教会では学生の時から執事に選ばれ、教会学校教師や聖歌隊などの様々なかかわりを持っていました。教会で信徒が担う役割は殆ど経験してきました。仕事の関係で長期の米国駐在所勤務などがたびたびあり、アメリカでは現地の教会で信仰生活を送りました。その間、執事に選ばれたり、アメリカにきている主にアジアからの留学生たちの教会学校のクラスを担当したりもしていました。

27年間勤務した事業所が使命を終えて閉鎖になったときに、一時的に外資系の若い会社に勤務したのですが、ある時突然解雇されてしまいました。次の仕事はすぐ見つかったのですが、このときに私の生涯はこれで終わっていいのかという思いが脳裏をかすめました。そこで祈りのうちに導かれたのが東京バプテスト神学校で学ぶ、ということでした。働きながら学んでいく内に徐々に牧会者になれという示しが与えられ、その思いがわたしの内に育ってきました。そして、祈った末に教会の推薦を得て専攻科へ進みました。営業職だったので、仕事が忙しく、本科、専攻科を合わせて修了するのに7年かかりましたが、卒業時点で招聘を戴いたのが茂原教会でした。62歳の新米牧師の誕生です。振り返ってみると、キリスト者になってから40年の間に、何度か献身への招きがあったように思います。そのたびにわたしは信徒として主に仕えるのだ、と意地を張って、抵抗していました。けれども主はとうとうわたしを捕まえて離しませんでした。これをお読みの皆さんにも神からの呼びかけがどこかであるのではないのでしょうか。茂原に招かれてから20年が過ぎました。茂原の町は人口10万人足らずの小さな町です。教会は現在会員は43名、礼拝出席が35-40名といった小さな群れです。

わたしたちの教会は誰もが集まれる教会をめざしています。では、誰もが集まれる教会とはどんな教会なのでしょう。わたしも関わっていた日本バプテスト連盟の障がい者と教会委員会が全国の教会にお願いしていることが三つあります。一つは会堂をバリアフリーにして、車椅子やお年寄りが自由に礼拝出席できるようにすること。もう一つは点字の聖書、讃美歌をそろえておくこと。さらに手話通訳がいれば良いけれど、最低受付にノートか小さなホワイトボードを用意しておいて、聞こえない人たちが来られたらコミュニケーションが取れるようにしておく、ということでした。茂原教会は5年前に点字聖書と讃美歌で35冊分の場所を確保したのでこの3点が揃いました。

「誰もが集まれる教会」として行ってきたことの一つに、礼拝のYouTube配信があります。今ではどこでも行っていますが、難病や家族の世話で礼拝に来ることができなくなった方のために、8年ほど前から配信を始めました。13年前に聞こえないご夫婦が出席するようになったので、礼拝には手話通訳が付けられています。月に1度手話の会を持っています。

それから、訪ねてこられる外国籍の人たちが増えてきました。教会学校の働きに、英語科が追加され、英語での聖書研究・祈祷会などの活動が広がり、月に一度は日英合同礼拝を持っています。外国籍の皆さんのこどもたちへの対応を模索しています。

このようにいろいろな方たちを迎えるためには柔軟な心備えが必要、専門知識や技術を持った人材が必要、設備が必要、と課題もたくさんあります。教会が生まれてから今年で25年、さらなる課題へのチャレンジを教会員一同祈っています。



多国語看板

「第59回全国壮年大会 西九州大会を終えて」 第59回全国壮年大会実行委員長 野中 滋生 (相浦光教会)

第59回全国壮年大会西九州大会は、去る8月24日(土)に長崎バプテスト教会を発信教会としてZoomで開催し、全国から241名の参加登録をいただき、無事に終了することができました。

西九州地方連合壮年大会が実行委員会を組織して、2021年12月4日(土)に第1回実行委員会を行い、以来計26回の実行委員会で協議、検討を重ね、そして、この間に大変多くの方々にご協力をいただき、大会に臨みました。

皆様方に心からお礼を申しあげますとともに、これまで主が共にいて導いてくださり、励まし力を与えてくださったことに対し、心から感謝をささげます。

さて、今回の大会はテーマを「協力伝道」とし、西九州という「地方からの発信」にこだわって、「西九州地方連合の取組をとおして」「事例発表」を中心に行う大会とさせていただきます。

主題聖句は、ルカによる福音書24章32節、『「わたしたちの心は燃えていたではないか」～臨在の主に、心燃やされて～』として、芦谷隆時兄に主題説教していただき、続いて西九州地方連合の紹介(中島一弘兄)、事例発表1「西九州地方連合と五島教会との交流の歩み」(木村幸治兄)、事例発表2「西九州地方連合内献身者の働き」(李守卿牧師)を行いました。

そして、質疑応答の後、九州バプテスト神学校宣教センター長松見俊先生に、今後に向けたアドバイスをいただきました。

最後に、閉会礼拝では、ルカによる福音書5章33～39節より「新しいぶどう酒」と題して長崎バプテスト教会曹銀珉牧師に説教をしていただき、大会を終了いたしました。

大会のために、それぞれ大変お忙しい中に準備をし、尊い働きをしていただきました奉仕者の方々に対しまして、心よりお礼申し上げます。

今回、積極的にZoomを活用して大会を作り上げたという点では、初めての試みだったかもしれません。準備段階、また大会開催の中で、その技術・知識や経験を持った若い実行委員会メンバーの働きや、西九州地方連合内の若い方々の協力が大きな力となり、大会のスムーズな進行につながりました。さらに、日ごろから積極的にネット関係を活用されている長崎バプテスト教会を発信教会としてこの大会のために使わせていただいたことも、大変大きかったと思います。

また、この全国大会を26年ぶりに担当するにあたり、全国壮年会連合新旧役員、事務局の皆様大変お世話になりました。そして、多くの方々にご参加いただき、信仰を同じくする人たちが全国にいらっしゃるということを西九州の地から実感することができました。感謝いたします。

最後になりますが、全国の諸教会、伝道所で「協力伝道」の働きがますます広がりますように祈り、第59回全国壮年大会の報告といたします。



「第60回全国壮年大会に向けて」

第60回全国壮年大会実行委員長 戸田 浩司 (西川口教会)

第60回全国壮年大会は北関東地方連合の担当で2025年8月22日(金)、23日(土)の2日間の日程で、埼玉県さいたま市にある日本バプテスト浦和キリスト教会を会場として、オンラインでもご参加いただけるようにハイブリッド開催とする予定で、現在準備を重ねています。

今回の第60回大会では日本バプテスト連盟宣教研究所の朴思郁所長に主題講演をご担当いただけることとなりました。そして大会のテーマを

これからの No Border な教会の話をしよう！

—教会が「教会」であり続けるために—

と決めました。

「No Border」というキーワードの捉え方は一人一人異なると思いますが、立場、性別、国籍、その他さまざまな「Border」(境界)を私たちは意識する場面が多々あります。

そんな環境の中でこのテーマが今の私たちに問われているのではないかと、という思いに至りました。

現代の教会が抱えている様々なBorderを受け止めながら、主イエスの時代にも多くの境界によって悩み苦しんでいた人々に、イエスはその境界を越えて手を差し伸べてくださった事柄に目を向けたいと思います。そして私たち現代の教会が、主から望まれている姿の「教会」であり続けるためには、どのような教会形成を目指すのか、共に意見を交わし、考え、分かち合いたいです。

大会プログラムのさらなる詳細につきましては追ってお知らせいたしますが、来年夏の第60回大会にどうぞ奮ってご参加ください。皆様とのお交わりを心待ちにしています。



「全国壮年会連合 定期総会(文書による)」2024.8.23

代議員登録数：(188)、投票総数：(138)、うち無効票数：(0)

議案番号	議案	票数				結果
		賛成	反対	保留	無回答	
議案 1.	2024 年度総会議長選任の件	137	0	1	0	承認
議案 2.	2024・2025 年度全国壮年会連合役員・奨学金委員追加承認の件	137	0	1	0	承認
議案 3.	2023 年度全国壮年会連合諸活動報告、決算、監査報告に関する件	137	0	0	1	承認
3-1	2023 年度全国壮年会連合活動報告					
3-2	2023 年度全国壮年会連合一般会計決算報告					
3-3	2023 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告					
3-4	2023 年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告					
3-5	2023 年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告					
3-5	2023 年度監査報告					
議案 4.	全国壮年会連合規約細則第 3 条等の改定案の件	133	2	3	0	承認
議案 5.	2025 年度 神学校献金目標額設定案の件	131	2	5	0	承認
議案 6.	神学校献金の用途拡大に関する「日本バプテスト連盟」と「全国壮年会連合」の覚書に関する件	129	4	4	1	承認
議案 7.	2024-2025 年度 全国壮年会連合活動計画 (案) の件	134	2	2	0	承認
議案 8.	2024 年度 全国壮年会連合一般会計修正予算 (案) 及び 2025 年度 全国壮年会連合一般会計予算 (案) の件	135	1	2	0	承認
議案 9.	2024 - 2025 年度 全国壮年会連合奨学金委員会活動計画 (案) の件	136	1	1	0	承認
議案 10.	2024 年度 全国壮年会連合奨学金会計修正予算 (案) 及び 2025 年度全国壮年会連合奨学金会計予算 (案) の件	136	1	1	0	承認
議案 11.	2026 年度 (第 61 回) 全国壮年大会担当地方連合の件	138	0	0	0	承認
議案 12.	2025 年度総会議長の件	138	0	0	0	承認

<2024 年度 全国壮年大会報告 感謝>

副会長・事務局長 稲川 仁 (宝塚教会)

2024 年 8 月 24 日 (土) 第 59 回 全国壮年大会 西九州 (長崎教会発信の ZOOM オンライン) が開催されました。皆様ご参加いただき、誠にありがとうございました。今回の大会は、信徒の皆様によるメッセージや、西九州地区における教会間の密接な協力伝道が紹介され、大変意義深いものとなりました。

特に、対面を無くし、オンラインのみで開催するという既成概念にとらわれない工夫が光り、実行委員の方々の情熱あふれる連携、主体性、そして充実感が感じられる素晴らしい大会となりました。実行委員、関係者の方々の熱心なお働きに心より感謝申し上げます。

なお、本大会の内容は全国壮年会連合のホームページ (<https://sonen.net>) で YouTube を通じて視聴可能です。ぜひご視聴いただければ幸いです。今後とも共に励まし合い、教会と共に成長して参りましょう。

全国壮年会連合 会長：高良 研一(恵泉)、副会長・事務局長：稲川 仁 (宝塚)
書記：木村 均 (大井)、会計：高井 透 (高崎)
監査：堤 秀幸 (福岡西部)、大城戸 一彦 (所沢)
同奨学金委員会 委員長：北村 慎二 (宝塚)、総務：浦瀬 佑司 (札幌)、会計：田口 清吾 (平針)
返還：鶴澤 寛 (鳥栖)、渉外：古田 晴彦 (宝塚)
連盟担当理事：武林 真智子 (飯能)、神学部長：才藤 千津子 (平尾)
事務局 飯野 實 (宮原)
神学校献金・会費 振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

